
短冊の挿話～promise～

葉月 あや

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短冊の挿話 / promises

【ノード】

N2829A

【作者名】

葉月 あや

【あらすじ】

2ページの童話です。狂うように咲く、哀しい恋の物語。

私はずっと其処にいました。
そこ
はるか遠い昔から。

其処はいつも、かなしい夕暮れでした。

其処には桃の木と、広い広い草原と、きれいな川がありました。

あかく咲くもみじの森と、匂やかな梨の木と、

背の高いすすきの草原と、赤い花に見送られるきれいな川がありました。

した。

川の流れは清かに、紅い森に映え、ちいさな舟を運びます。
ながれに沿つて進む舟は、あかるい場所に行きます。

ながれと反対に進む舟は、冥い場所に行きます。

冥い場所には少しのあかりも無いのだと、いつか誰かに聞きました。

誰から聞いたのかは、どうしても思い出せないのでした。

其処にはたくさん的人が訪れます。

みんな何も話さないで虚ろな目をしていました。

だから私も黙つたまま、その人たちを舟に乗せてあげました。

どちらの舟に乗せるかは、手をつないだらわかりました。

どうして何故わかるのかは、やはり思い出せないのでした。

ある時、誰かに話しかけられました。

幼い男の子でした。

私は彼と手をつなぎました。

けれど行き先はまだ、わからなかつたのです。

こういう人は自分の名まえを思い出して、すぐに元の場所に迷つていくものでした。

けれど思い出さなかつたら、舟に乗らなければならぬのです。

彼ははじめこう言いました。

『私はおとなになれずに此処へ来てしまつたのが、すこし哀しい』

だから私はこの子をおとなに変えてあげました。

私もこの子に合わせた姿になりました。

私たちのはじばらく一緒にいました。

もみじを集めたり、冷たく澄んだ川に触れて遊んだり。

彼は川岸の赤い花を摘んで、簪かんざしに見立て、私の髪に飾つてくれたりました。

広い広い草原を歩いたり、川に入つて遊んだり、時々手をつないだりしました。

彼は、人を舟に乗せるのを手伝つてもくれました。

私たちは様々なことを話して、そこにはたくさんの笑顔がありました。

た。

いつからか私は、このときが永久に續けばいいと、願うようになりました。

それは、どうしようもなく幸せで、

狂おしいほど悲しい気持ちでした。

けれど、お別れのときが刻々と迫っているのを私は知っていました。

ひとはいつまでも其処にはいられません。

どこかに進まなければならぬのです。

彼のような人は、みんな還暦つていきました。
還らない人はいませんでした。

彼も当然そうなると思つていました。

けれど、どうしてか。

いつまで経つても名まえを思い出せなかつたのです。
このままだと私は彼を、
舟に乗せることになるでしょう。

私は彼の手をひいて梨桃の木のところへ行きました。
本当はいけないことなのですが、私は彼に、その梨の実桃を食べさせてあげました。

そうしたら彼は、自分の名まえを思い出しました。

禁じられた事をしたら破つたら、当然その報いが訪れます。
けれど後悔はありません。

あの人の名まえを知りたくてした事なのだから。

こうして流れと反対に進む舟に乗せられて、
冥くらい場所に行きつくとしても。

でも、このままでは絶対に終わらせない。
待つていて。

いつかまた、めぐり逢ひませぬ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2829a/>

短冊の挿話～promise～

2010年10月21日21時07分発行